

前穂高岳北尾根

2011年12月31日～2012年1月3日

メンバー：斉藤、杉山（M&C）岡崎（M&C）
西本（M&C）

前穂北尾根には春に一度、涸沢をベースに登っているが、快適なお手軽ルートといった印象が残る。しかし、冬にトレースするとなると慶応尾根から取り付き、北尾根を8峰から登り、前穂本峰へ。その後、吊尾根を経由して涸沢岳西尾根を下降するという岳人憧れのビックルートとなる。今回、杉山さんに声をかけていただき、こんなチャンスは無いとばかりに胸を借りる事とする。私は厳冬期の北アルプス 3000m 稜線を縦走した経験は無いが、果たして大丈夫だろうか？

12/31 AM7:00 に予約していたタクシーに乗り込み沢渡の駐車場を後にする。天気は快晴で気分も良く、車内での会話も弾む。釜トン

ネルの入り口である中ノ湯でタクシーを降り、計画書を提出すると、釜トンネルの中へと歩き出す。トンネル内は年末年始のこの時期にだけ電気を点けてくれているようだ。釜トンネルを抜け、周りを見渡すと予想通り積雪は少ない。大正池などの景色を楽しみながら、良く踏まれた道を坦々と進む。徳沢を越え、新村橋へと道をそれると踏み後も細くなる。この時期にしか見る事の出来ない。真っ白な梓川の河原は絶景だ。梓川の右岸に渡ると前日に踏んだのであろう踏み後を一歩一歩拾いながら進んでいると、暖かい陽射しのせいか、眠くて眠くてしょうがない。奥又白谷に出合うとトレースは左に折れ谷の右岸を進む。12月の頭に慶応尾根に偵察に来た時には奥又白谷の一番下流側の堰堤を渡渉し、慶応尾根を末端から取り付いたが、トレースはまだ上流へと伸びている為、トレースに従う事とする。暫く進むと最上部の堰堤でトレースが谷を渡っている。トレースに導かれ進むと、渡渉後

弱点を突きながら斜面を登ると 1795m のコ
ルへと飛び出した。このルートだと谷と尾根
との高低差も少なく、尾根を末端から取り付
くよりかなり時間短縮する事が出来た。尾根
上に乗ってからはテン場予定地であるパノラ
マコースとの交差点を目指し、ひたすら急登
が続く。パノラマコースに出会うと屏風側に
一段上がった所にテントを張り、その日の宿
とする。



慶応尾根から望む北尾根（写真は偵察時に
撮影）

中の湯 7:15～8:45 上高地河童橋～10:40 徳沢
～11:12 新村橋～12:00 奥又白谷渡渉点(最上
流部堰堤) ～12:30 慶応尾根 1795m コル～
14:00 慶応尾根パノラマコース交差点

2160mBP

1/1 いよいよこれから北尾根に向かうという
緊張感を胸に AM5:35 まだ薄暗い中、慶応尾
根を更に上へと登り出す。前日に聴いたラジ
オの天気予報は曇り午後から荒れ出すという
予報。テン場予定地である 3、4 のコルへと
午前中に着きたいと願う。間も無く樹林帯を
越え、振り返るとたちこめた雲の切れ間から
初日の出が顔を出す。その日最初で最後に拝
んだ太陽であった。雪の斜面を登って行くと
目の前に 8 峰を望み、北尾根全体を拝める。
いやがおうにも登高意欲が高まる。8 峰の直
下で下降してくるパーティーとすれ違う。話
を聞くと午後からの天候が荒れる前に下山す
る為、引き返して来たとの事であった。8 峰
に着くともう 1 パーティーが撤退の準備にか
かっていた。北尾根を 8 峰から一旦下ると奥
又白谷側に大きな雪の斜面が広がる。7 峰の
登りにかかると岩場が出始める。岩には縮ま

りきらない中途半端な雪が乗り、緊張を強いられる。7 峰のピークより涸沢側を覗くと霞みガラスを通して見るような光景の中に雪の中から小屋の一部だけを覗かせる涸沢ヒュッテが見える。夏の喧騒からは想像も出来ない幻想的な光景が不思議なものに思える。6 峰、5 峰、4 峰と足を進めるごとに岩のセクションも増え、高度感も増してくる。アイゼンの前爪に「頼む！」と願いながら体を持ち上げる場面が多くなる。もうミスは許されない。4 峰より急雪壁を下り、AM11:25 3、4 のコルに着くと暫くぶりに緊張がほぐれる。3、4 のコルからルート中の核心である3峰を見上げると丁度、核心ピッチに先行パーティーが取り付いていた。まだ時間も早いのでその日の内に核心部にロープをフィックスしてしまおうと話していたが、なかなか先行パーティーが進めずにいる。テントの設置にかかっているとみるみる内に暴風雪になってしまった。ロープのフィックスを諦め、テントに潜り込

む。それから暫く、先行パーティーのコールが聞こえていたが、あの吹雪の中での登攀で凍傷にならずに済んだのであろうか？外は吹雪でもテントに入れば皆、陽気だ。夕方になりラジオの天気予報を聞き、杉山さんが天図をとる。杉山さんと岡崎さんとで予報を立てる。結果としては翌日以降下り坂との予報であった。その結果にメンバー一同ショックを隠しきれない。3、4 のコル以降核心である3峰の登攀から始まり、本峰を越え吊尾根へと進む予定だが、吊尾根を越えるまでは、ある程度の天候が約束されていない限りは、先に進む訳にはいかない。停滞するにも状況を悪化させるだけだろう。翌日より同ルートを下降するという苦渋の決断をする。距離としては前穂の頂上はもう目の前だ。下山する事は悔しい事だが、仕方の無い事だ。その夜は深夜までテントを雪が叩き続けた。夜明け前に用を足す為、外へ出ると雪もすっかり上がり、月に照らされた奥穂、北穂の美しさと、その

迫りに息を飲み暫く見とれていた。



7峰の登り慎重に足を進める

BP5:35～北尾根8峰～8:15北尾根6峰～9:30

北尾根5、6の科尔～10:20北尾根4、5のコ

ル～11:25北尾根3、4の科尔BP

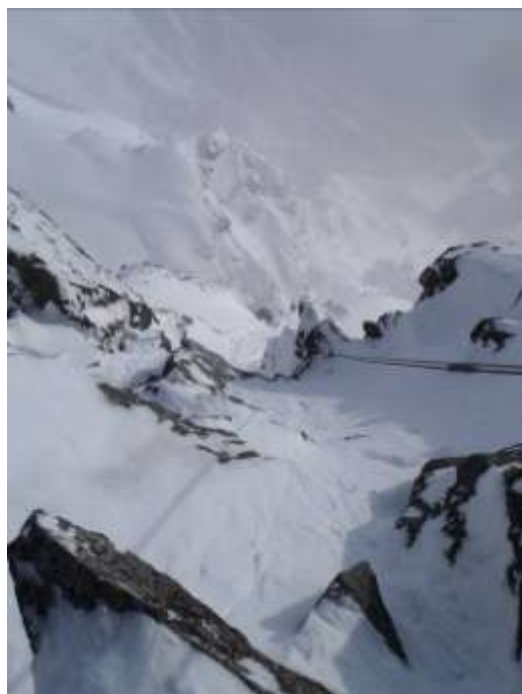
1/2 朝、起きて雪に押し潰されんばかりのテントから外を覗くと新雪が50cm程積っていた。天候は一時的に回復しているものの、風は強い。早々に食事を済ませ、テントの撤収にかかるが、低温により指が痛く、作業が捗

らない。この日は5、6の科尔まで下降する予定とする。AM5:553、4の科尔から、もともと来た4峰へと登り返すが一向に体が温まらない。4峰のピークから4、5の科尔へと下りにかかるると風が更に強くなる。時折襲い掛かる突風に雪が舞い上がり、息が出来ない。不安定な雪の乗った状態の中での4峰の下降は想像以上に困難なものであった。皆それぞれ顔から氷柱を垂らし、4峰、5峰と懸垂下降を重ね、AM11:455、6の科尔へと降り立つ。



新雪により悪い徒行が続く

無事、下降出来た事に心底、ホッとした。テン場には暴風に備え、一際高くブロックを積み上げた。その晩は恐ろしい程の風がテントを叩き、なかなか眠りに就く事が出来ず、シユラフの中で感覚の無くなった足の指をマッサージして夜を過ごす。



4 峰からの下降

BP5:55～11:45 北尾根 5、6 のコル BP

1/3 「今日は下れる所まで下ろう。」と

AM7:00 テン場を発つ。2 日前のトレースは

すっかり埋まり、ラッセルが続く。6 峰、7 峰の岩場を慎重に越え、8 峰が近づくと大きな雪面が広がる。ほんの少しの刺激でいまにも雪崩だしそうなデリケートな斜面だ。雪崩をおこさぬよう、一人ずつ通過する。緊張しながら一歩一歩を踏み出す。



7 峰からの下降

8 峰に着けばもう安心だ。後は、何も気にする事無く慶応尾根を下降するだけだ。慶応尾根の傾斜の落ちた所まで行き休憩する。安心感からか話す会話も陽気になる。後ろ髪を引

かれる思いで本峰方面を望むが雲の中から姿を現す事は無かった。



慶応尾根より前穂本峰方面を望む

その後、慶応尾根を一気に下り、奥又白谷の渡渉点で前穂を見上げるとそれまでずっと雲に隠れていた前穂のピークが姿を現した。まるで「また来いよ。」と言っているように思えた。メンバー4人がそれぞれの思いで北尾根を見つめ、冬の北尾根に再び来る事を心に誓った。その後ひたすら歩き続け、釜トンネルの中へと歩くと、アスファルトの上では軽い凍傷を負った足の指に痛みがはしる。一日で5、6の科尔から中ノ湯まで歩き続けさすがに疲れてしまった。

今回は計画を達成出来なかったにもかかわらず、大変大きな充実感を得る事の出来た山行であった。厳しい山行の中、杉山さん、岡崎さんという経験豊富な二人のお蔭で多くの物を得る事が出来た。もう一人、今回の山行の紅一点である西本さんも含め、本当に素晴らしいメンバーであった。一生の宝物になるであろうこの山行を、共に出来た事に感謝したい。

BP7:00～10:00 北尾根 8 峰～11:00 慶応尾根
パノラマコース交差点～12:00 奥又白谷渡渉点～徳沢～上高地～16:20 中の湯



下山途中、前穂と明神を望む